

[作品名]

むりよくな兄アヒル

[作品写真]



[作品の説明]

兄アヒルは誰もが羨む立派な羽を持っていた。

そんなある日、

ボコボコボコボコボコ

モブ「けっ、このへたれが、なんで手を出してこねえ。つまんねえ、もういくぞ。」

弟「なんでお兄ちゃんは殴り返さないの？」

兄「アヒルの手は殴るためにあるんじゃないかねえ、羽ばたくために付いてんだ。」

弟「にいちゃん、かっけえ。俺もにいちゃんみたいな強い男になりたい。」

悲劇は起こった。

兄「やめてくれ、弟を連れて行かないでくれ」

モブ「うるせえ、こいつは今から俺のゴージャスな巣作りのトリ柱になるんだ。文句があるなら、その立派な羽で何とかしてみろ」

兄「この、、羽は、、」

弟「にいちゃん、もういいよ。俺、大丈夫だから。俺は俺のやり方で強くなるよ。にいちゃんはいちちゃんが信じることを貫いてくれ。」

兄「・・・・・・・・」

最初は2週間に1回来ていた連絡も、ここ数ヶ月はない。

後から行ったアヒルの話じゃ、最後に見たあの日、あいつは写真の夕日を見て、羽を羽ばたかせていたそうだ。

ボロボロの羽で弱々しく。狭くて暗い部屋の中。

兄アヒルは変わった。

「俺は非力だ。こんな羽、何の役にもたたねえ。もういらねえ。」

→ からの肉体改造後の姿がこの作品

その後、兄アヒルは弟アヒルの救出に向かい、弟アヒルに加え、一緒に多くのアヒルを救った。

弟はその後、勉学に励み、立派なビジネスマンとして大成し、恵まれない多くのアヒルを支援した。

後に兄アヒルの姿は、強さの象徴として村の中心には銅像となった。

銅像には、キャノン砲の代わりに大きな羽が付けられたという。

[作者名]

もっさりりょうちゃん (ブロック団・団長)



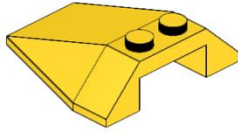
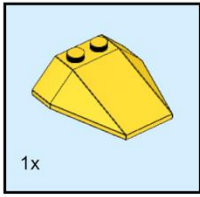
秘密結社ブロック団の団長。上記のような不謹慎な前置きを平気でやるような男。普段は世を忍ぶ仮の姿として会社を経営したり、マッドサイエンティストをしたりしている。

[こだわりポイント]

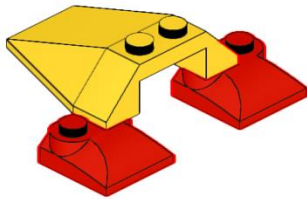
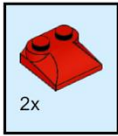
- あどけない顔をしていて憎めない。
- キャノン砲が黒くてカッコ良い。(羽をキャノン砲に変えたので、代わりにジェットの推進力で飛ぶ羽を付けた。)
- 薬莢を落とすことで、先頭の臨場感を出している。

[設計図]

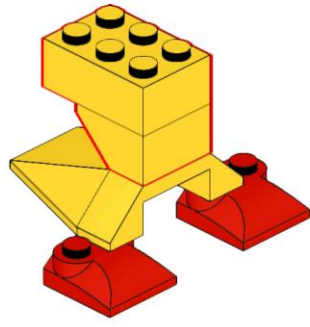
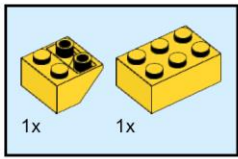
1



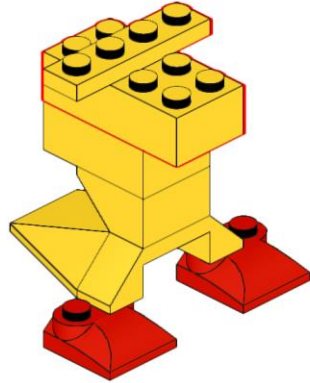
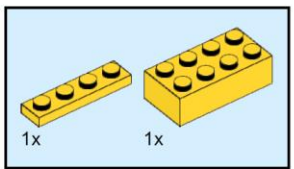
2



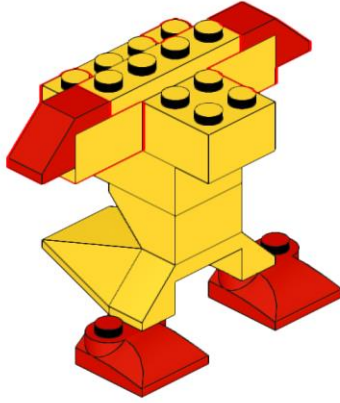
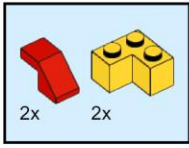
3



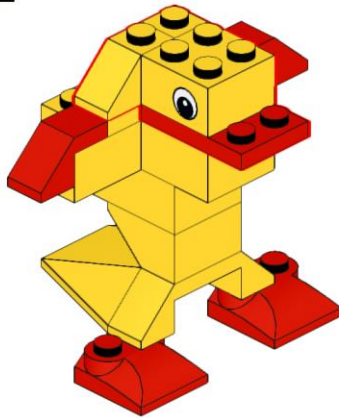
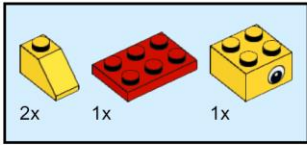
4



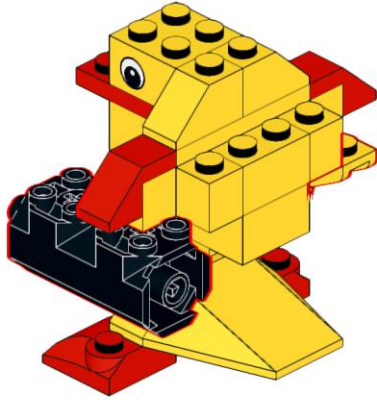
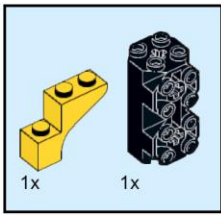
5



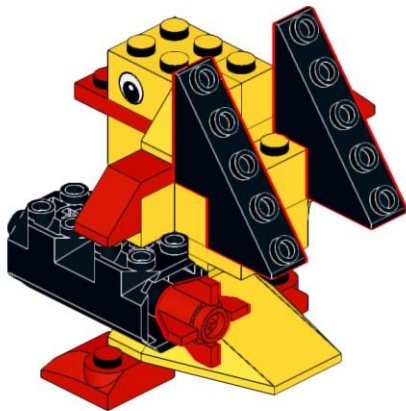
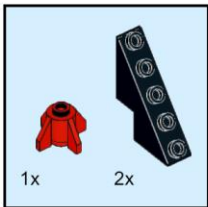
6



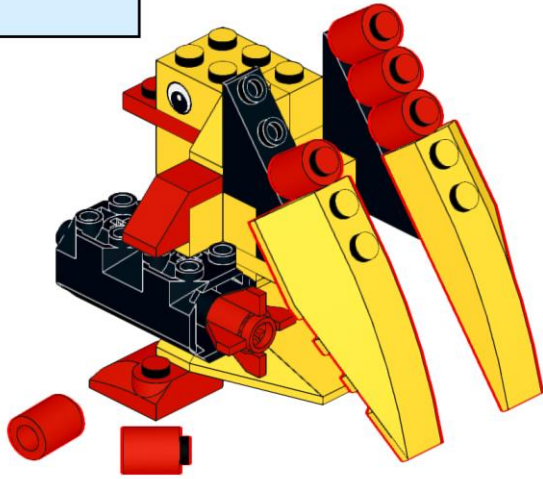
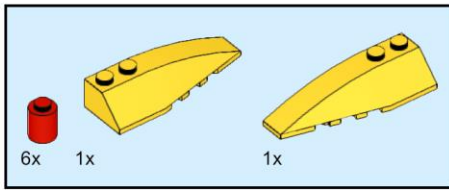
7



8



9



10

